

かがやく

★
あなたも、わたしも



特集

かがやく個性たち⑮ ～助産師をめざして～
お母さんが安心して出産を迎えられるようにサポートしたい!

● 我孫子市男女共同参画講演会

● 新作講談「金子みすゞ」～みんなちがって、みんないい～

● 育児・介護休業が取りやすくなりました!



お母さんが安心して出産を迎えられるようにサポートしたい！

我孫子市役所の近くに赤と白を基調にした明るい建物の助産師専門学校（1年制）が、昨年誕生しました。千葉県で4番目の専門学校で、全国各地から入学しています。現在では、助産師は女性に限られています。医師の産婦人科離れ、出生率の低下が注目されているいま、専門学校で助産師を目指してかがやいている5人の個性たちにお話を伺いました。

出席者：Aさん・Bさん・Cさん・

Dさん・Eさん

（あびこ助産師専門学校学生）

【司会：市民編集委員】

助産師を目指した動機は？

司会 ご出席ありがとうございます。皆さんは既に看護師の資格をお持ちになっていて、病院勤務を経験した方もいらっしゃるようですが、さらに助産師専門学校に入られた動機は？

Aさん 私は17年間看護師をしていました。結婚11年になりますが、子どもができず不妊治療を受け、8年目には体外受精を試みましたが授からず、夫と2人で生きることに決めました。そんな時、後輩が出産時に母子共に死亡し、こんなことが現在の医学であっていいのかと、不妊治療の大変さもあわせて考え、産婦人科のことを何も知らない自分に気付きました。そして、自分は母になれないけれど、助産師になって自分の手で赤ちゃんを取り上げたいと思い入学しました。滋賀県に夫を残し我孫子の学校を選んだのは、12年前千葉県の子ども病院に勤務していた時の千葉県の印象が良かったからです。奇跡的に合格して（笑）いま我孫子市内に住んでいます。



Bさん 私は看護学校を卒業してそのままこちらに入学したので、臨床経験はありません。看護学校に入る頃、テレビの特集番組で、80歳代の助産師さんと妊婦さんとの深い関わりを見て、年をとっても続けられることは凄いなと感じていました。また看護学校の実習で助産師さんと妊婦さんの信頼関係を知り、私もお母さんが安心して出産を迎えられるように関わっていき助産師になりたいと思いました。出身は鹿児島県です。

Cさん 私も看護学校を卒業後、臨床経験なしに助産師学校に入学しました。今は大好きですが、一時期母親との関係に悩んでいたこともあって、看護学校でも母性にかかわる授業は嫌いでした。でも実習で出産直後のお母さんと授乳室に行った時、お母さんたちの授乳の仕方、おむつ交換のやり方など赤ちゃんへの接し方が一人一人違って一生懸命にされている姿を見て、これが母性だと感じました。帝王切開で出産されたお母さんが、低体重の赤ちゃんと一緒に退院するために、痛みを我慢して一日中授乳している光景を見て胸がいつぱいになり、私も一緒に頑張っていけたらと強く思ったのが助産師をめざした動機です。神奈川県出身です。

Dさん 私は今37歳ですが、ずっとOLをしていて、34歳で看護学校に入りました。臨床経験はありませんが、友人たちが高齢出産のハイリスクに直面しているのを目の当たりにして、これが私のやる仕事だと助産師になる決心をしました。全国に助産師学校は少なく、非常に入学が厳しいところです。（注：全国に60校、千葉県に4校）幸い昨年我孫子に専門学校ができたのを知り、

どうしても入りたいと思いました。びっくりしたのは地元の人は少なく、全国各地から入学されていることです。新婚生活と両立しながら、松戸市から通学しています。

Eさん 私は高知県出身で、看護学校はずっと高知でした。看護学校で母性実習をさせていただいた時、同じ女性としてお母さんに接するときに自分がどう関わればいいのか、すごく悩んでいました。その悩みを克服するには現場を知ることだと産婦人科に興味を持ちました。同時に助産師にも興味があり、現役の時から助産師学校に挑戦しましたが、難関でした。卒業後千葉に引っ越すことになり、千葉市の産婦人科で働きました。女性のために女性が働く現場でしたから、対応の仕方、接し方についての悩みは解消したのですが、もっと関わることができる助産師に再挑戦しました。こちらの学校は、地元の産院の先生が関わって、お母さんのための呼吸法など実習をされていると知り、私も向上心を持って学べると思って受験しました。

少子化対策は 住みよい街づくり

司会 助産師をめざした動機がそれぞれ違って、皆さん素晴らしい感性と意思を持ってお話いただき感動しました。いきなりですが、今言われている少子化についてどうお考えですか？

Eさん 少子化については、授業の内容にも入っていて考えさせられます。いろいろ理由はあると思いますが、少子化対策としての街づくりをする、男性の育児参加をどうしていくか、男性が育休を取れる状態であるか、仕事によってはこの不景気で大丈夫なのか、子どもが住みやすい状況であるか不安もあるでしょうし、全体で考えなければと思います。

Dさん我孫子市には保育所はいくつあるんですか？友人の中には保育所不足に悩んでいる人がいます。

司会 我孫子には市立保育園が7か所、

私立保育園が11か所あります。「待機児童ゼロ」が市の施策で、我孫子で子育てをしてもらおうと、若い世代の取り込みのキャッチコピーにしています。これを頼りに他市から住み替えた人もいますよ。

Aさん 少子化対策では、子ども手当の支給など子育てへの支援がなされていますが、環境ホルモンの影響もあると言われる不妊の治療にも手厚い対策が必要だと思います。体外受精には保険が効きません。不妊治療や人工授精、体外受精にかかる医療費はたいへん高額です。経済的に産みたくても産めない人のために、医療費負担についても特別な配慮と支援がほしいですね。

家族に、お母さんと子どもの「命」を渡す仕事

司会 助産師は、人間の命の誕生にかかわる素晴らしいお仕事ですね。

Eさん 助産師の基本は寄り添うケアなんです。子どもをお母さんのもとに渡してあげる、命を渡してあげることだと思います。自分のこの手で、子どもの命、お母さんの命を守り、それをとりまく家族に渡すという重い責任を感じます。本当に命って素晴らしいなと思います。

そして母性にはいろいろな幅があると思います。赤ちゃんを思う心も母性ですし、他人を思いやるのも母性だと思います。それを生活の中でさまざまな人にどう気付いてもらうか本当に難しいと思います。女性の性を学んでいる私たちから思うことですが、男性、パートナー、家族みんなの性について理解を深めることが男女共同参画につながると思います。「父親が変われば、この社会が変わる」といわれていますが、母性についても一人一人が分かれば地域

自分で母子を守る体制も整ってくると思いますし、私たちも助産師としての力を備えてから、働いている職場、そのまわりの地域全体でどうしたらいいか考えていけたらと思っています。命をあずかる助産師として



出産時のリスクをなくし、お母さんが安心して安全に出産できるよう勉強していきたくと思っています。

若い人の中で命を軽く考える傾向があるのが心配です

Cさん 私も、リスクを軽減して正常な分娩に持っていくのが助産師の役割ですから、そのような安心される存在になりたいです。また、最近の思春期の人たちが、命を軽く考える傾向があるのではと気がかりです。中絶をした知り合いもいて、子どもの頃から命の大切さを学ぶ必要を感じました。これから助産師として力になればと思います。

Dさん これだけ医学が進歩し平和といわれている中で思春期の人たちに性感染症（STD）が増えているのは、知識がないというか、性教育の遅れが確実にあると思います。男性が、男性として父親として性を確立していくにあたって、男の自分が正しい性教育を受けて大人になることが大切だと思います。赤ちゃんができれば父親の育児参加をとおして、社会への責任や地域の人への思いやりに繋がっていくのだと思います。学校で女の子だけ限定的な性教育では困ります。命の大切さを学んでほしいです。

Eさん 最近、妊娠についても高齢出産が増え、初診の年齢が遅くなっていますが、市の行っている子宮がん検診を利用するなどして、早く自分の生殖機能を把握することが大事だと思います。性感染症の発見や予防にもつながります。

一生仕事を続けたい。パートナーと理解しあって！

司会 助産師は夜中の呼び出しなどもあって大変ですが、ワーク・ライフ・バランスをどのようにしていきたいと考えていらっしゃいますか？将来の夢は？

Eさん 数年は体を壊さない程度にバリバリ働き、たくさん経験を積みたくと思っています。助産師を続け、仕事の中に喜びを見つけていきたい。定年になったら、お隣の相談ののってあげるおばあちゃんになりたいです。

Dさん オンとオフの部分を自分がどういうふう生きて



いくつか、いき当たりばったりでなく、この年にこんなことをしたい、ここではこんなことをしたい、夢かもしれないけれど自分らしいライフスタイルを創っていきたくと思っています。

Aさん 最近20代の女性に専業主婦志向が多いと聞き、それはそれで生き方の選択ですすらいのですが。看護師になりたての頃、先輩からバーンアウト（燃え尽き）したときの経験を聞いたり、実際にやめてしまった人も知っています。でも、患者さんから教えられたり、「ありがとう」の一言に励まされたりして続けてこられました。

Cさん 仕事は一生続けたいと思っていて、結婚するパートナーには私の仕事を理解し協力してほしいし、私も相手の仕事や生き方を理解していきたくと思っています。

Bさん 私は結婚もしたいし子ども産みたいと思っています。自分の子どもを育てるときには、コミュニケーションをよくとって、寂しい思いをさせないようにと思っています。仕事と子育てに協力してくれる人がいいですね。テレビで見た80歳を過ぎた助産師さんのように、長く仕事をしたいと思っています。

Aさん 今は男性が家族を養って食わせてやるという社会ではないし、女性もいきいき働ける社会が続いてほしい。うちでは夫が協力してくれて、男女共同参画を実践しています…（笑）。これから助産師の仕事とおして女性のリスクを取り除いていきたくと思っています。

司会 長時間、貴重なお話をありがとうございました。命と向き合う助産師をめざして、若さと知性をぶつけて勉強していらっしゃる皆さんに心から敬意を表し、将来を期待しています。いつまでもお元気に輝いてください！

新作講談「金子みすゞ」～みんなちがって、みんないい～

いちりゅうさい はる み

講師 一龍齋 春水 さん

男女共同参画月間の日、声優であり講談師の一龍齋春水さんのお話を聞いた。ご自身の体験をリズムカルに、後半では新作講談「金子みすゞ」を、所々にみすゞの詩を巧みに織り込んで語る話し運びは、さすが真打。100名を超す聴衆の心を捉えて飽きさせることがなかった。



アニメの声をやってみたい！

小学生の頃から朗読好きの「放送室少女」だった春水さんは、アニメの声をやってみたいという夢を叶えて人気アニメの声優として活躍した。そのうちに芸能人の保険や年金を導入することになって、その役員を務めた。実力本位の平等な職場なのに、いざ事があったときに出るお金に男女で差がある。一般社会の査定基準にそっていると説明されたが、どうにも腑に落ちなかった。実力をつけて発言力のある人になりたいと思って、10年ほど劇団で芝居の勉強をした。声の専門家として、声を磨き上げる勉強法も模索する。言葉だけでなく、風を、音を、光を、想いを伝える劇読—ドラマティックリーディング—を勉強する先輩たちの仲間に入れてもらってさらに10年続けた。

講談の世界へ

それから伝統話芸の一つである講談に出合い、40歳のときに後に人間国宝となる一龍齋貞水師匠の門を叩いた。そもそも侍が侍に戦（いくさ）の状況を教えるために始まったものとされる講談は、江戸時代の初めから昭和の初期に至るまでずっと、「男の芸だから女にできるわけがない」と言われ続けてきた。今でこそ女流が過半数を占めるようになったが、そんな流れから、古典は男が読む本ばかり。男の人が語って面白い、男の腹で書いてあるものを、女がどう読んでもやっぱり、そこにある真実や面白味が伝わらない。ならば、温故知新、その技術、その芸を腹に収めて、女性が語ってその想いが聴衆に伝わる作り方をしたい。女流ならではの面白味がそこにある。今の新作も、良い話であれば、百年、二百年経って古典として残るはずと精進する。

思えばドアが開く

人間が生きるとは、男でも女でもなく、健常者でも障害者でもなく、どう前向きに生きていくかだ。前向きに生きようと思えばドアが開く。声優になりたいと思ったときも、違う勉強をしたいと思ったときも、講談に巡りあえたときも、そして『中村久子の生涯』という本に出会えたときも、向こうからドアが開いて救いの手が伸びてきた。幼い頃に病で手足を失った中村久子の生涯を伝えようと新作講談「中村久子伝」を語るうちに、金子みすゞに出会う。

女流が語る新作講談

金子みすゞは、明治36年、日本海に面した漁港で知られる山口県大津郡仙崎（現長門市）に生まれた。読書と子どもが大好きだった。優秀な成績で女学校を卒業してから、母の再婚先の書店を手伝いながら詩の投稿を始めた。あるとき、5篇の詩を4つの雑誌に投稿して一斉に掲載され、西条八十から「若き童謡詩人の中の巨星」と称賛された。しかし結婚後は文学に理解のない夫から詩を作ることを禁じられ、病気、離婚と苦しみが続いた。幼い娘の親権を強硬に求める夫に宛て、せめて最愛の娘の養育を実母に託すよう書き遺している。

鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがって、みんないい。

今では、小学校の教科書に載っている金子みすゞの詩。春水さんは、昭和の初めに26歳で果てた女性の最期を、想いを込めてこう結ぶ。

「残された命のすべてをかけて、もっとも愛おしい命を守り、育てはぐくみ、そしてその命が後へ後へと続いていくようにと願って光になったのでございます。512篇の詩を残して旅立った金子みすゞ、その人の短い生涯。新作講談、これにて読み終わりでございます。」



アンケート回収率は88.2%、たくさんの感想をいただきました。

育児・介護休業が取りやすくなりました!

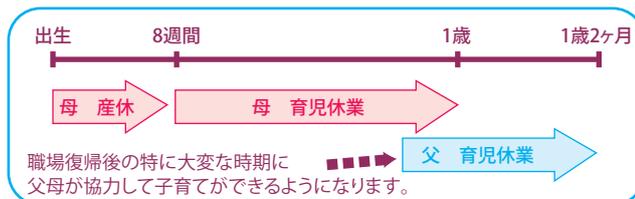
育児や介護をしながら働く人が仕事と生活を両立できるよう、平成4年に「育児休業法」がスタート。両立支援制度は少しずつ充実をみてきました。今回の改正は、これまで以上に、男女がそれぞれの負担を軽減しながら仕事を続けていける環境づくりを目指したものです。

◇子育て期間中の働き方を見直し、仕事を続けやすい制度になりました。

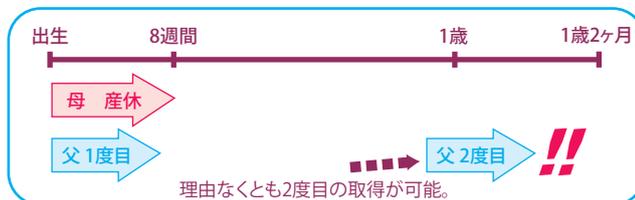
- ・3歳未満の子どもを養育する子育て期は、短時間勤務(1日原則6時間)が可能となり、請求をすれば残業、休日出勤などの免除を受ける事ができます。
- ・子どもの看護休暇が拡充され、小学校就学前の子どもが1人なら年5日、2人以上なら年10日取れます。また、子どもに予防接種や健康診断を受けさせる目的でも看護休暇が取れます。

◇父親も子育てができる働き方を実現するため、男性が育児休業を取りやすくなりました。

- ・父母が取ることができる育児休業はそれぞれ1年間ですが、「パパ・ママ育休プラス」制度の創設により、父母がともに育児休業を取る場合、1歳2ヶ月(現行1歳)まで延長できます。



- ・子どもの出産後、父親が8週間以内に育児休業を取った場合、2度目の育児休業も取ることができます。



- ・労使協定による専業主婦(夫)除外の規定の廃止により、配偶者が専業主婦(夫)や育児休業中であっても、すべての労働者が育児休業を取ることができます。
- ・育児休業給付についても改正され、育児休業開始時の賃金の50%が育児休業期間中に支給されます。

◇仕事と介護の両立支援のため「介護休暇」が新設されました。

現行の「介護休業」(対象家族1人につき、要介護状態に至るごとに1回、通算93日まで介護休業を取ることができます。)に加え、要介護者の通院の付き添いなどのために、1人年5日、2人以上なら年10日の短期休暇を取ることができます。

◇実効性を確保するための仕組みが創設されました。

- ・制度が充実しても、これを安心して使えるためには事業主が育児・介護休業法を守らなければなりません。
- ・育児休業取得に伴うトラブルについて、都道府県労働局長が紛争解決の援助をしたり、調停委員によって調停を行ったりする制度が設けられました。
- ・法違反の事業主に対し、勧告に従わない場合は企業名を公表したり、虚偽の報告などをした場合は過料する制裁措置が設けられました。



「育児・介護休業を取ってみようかな?」と思ったら

まず、自分の勤めている会社の就業規則をチェックしましょう。

肝心なのは、事前の上司への相談、同僚のあと押しです。

大切な人のために、普段から社内の理解を得る努力をしましょう。

そして、育児・介護休業申出書など申請書類が会社に置いてない場合は

ダウンロードしちゃいましょう。

詳しくは、育児・介護休業法に関する厚生労働省のホームページをご覧ください。
<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/ryouritu/index.html>



両立支援キャラクター
両立するべえ

編集後記

助産師専門学校の子供の皆さんが、人生の目標をしっかりと持って学んでいらっしやる様子にうれしくなりました。「新しい命を母親と家族に手渡す」という言葉には、仕事への誇りと責任が滲んでいました。誰もが自分らしく希望をもって歩める社会でありますように。
T.S.

■発行：我孫子市 ■発行日：平成22年8月 Vol.19

■編集：『かがやく』編集委員会

我孫子市市民生活部 市民活動支援課 男女共同参画室
〒270-1192 我孫子市我孫子1858番地 TEL.04-7185-1111

地球環境保護のため再生紙を使用しています